

## 本時のねらい

粘土で作った作品を写真にとり、アニメーションを作成する。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・写真アプリを活用してのアニメーション作りを、一人一人が自分の端末を使って行う。
- ・友だちの作品を鑑賞して、よかったところをふりかえる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・iMovie ・電子黒板

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○本時の活動内容をつかむ。 「写真をとってつなげよう」 ○作品に付け足しや修正をしたい点があれば行う。 (写真1)	・インターネットで画像検索をして、作品づくりを行う。
展開 (70分)	○粘土の作品を写真に撮り、アニメーションづくりを行う。 ・モデルを示す。(写真2) ・作品の写真をとって、アニメーションを確認する。 ○iMovieを使い動画にする。 ・iMovieの使い方を知る。 ○写真アプリを使い、写真をスライドするか、iMovieを使いお互いの作品を鑑賞する。	・教員の作成したモデルを電子黒板で示し、見通しを持たせる。  ・写真アプリを使い手動で動かすか、iMovieで発表するか選択させることで、自分にあった発表の仕方ができるようになる。
まとめ (10分)	○鑑賞会についての振り返りを行う。 ・「作ってみて思ったこと」「○○作品について」「もし次に作るなら」の視点で振り返りを書く。(写真3)	・自分の作品についての友だちの感想などを、ロイロノートの提出物一覧を共有し、見ることができるようにすることで、自分のふりかえりの参考にすることができる。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：作品づくりをする様子



写真2：教員モデルを示している様子



写真3：授業支援ソフト「ロイロノート」を使い、ふりかえりしている様子

## 児童生徒の反応や姿容

- ・児童にとって、クレイアニメーションが身近なこともあり、前時からの作成活動に対する意欲が高かった。
- ・形を作るものとして捉えていた粘土とiPadを組み合わせることで、自分の動画を作り出せることに気が付き、ふりかえりにその喜びの気持ちを書く児童が多数見られた。
- ・自分の作品の発表も、友だちの作品の鑑賞も意欲的に見て回る児童が多かった。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・自分たちにとって身近なものが、テレビで放映されるような動画につながっていることや、作品がそれに近いものになっていることに喜びと驚きを感じる児童がとても多かった。
- ・粘土を使用していること、作成物、ストーリー、演出など、個人の自由に行える点が多い学習活動となっており、児童が前向きに参加しやすい。
- ・撮影のポイントは、カメラの固定、対象物は少しずつ動かす、たくさん撮影の3点で児童はよく理解して活動することができた。
- ・基本アプリとしてiMovieを動画作成に使用したが、写真アプリで写真をスライドし、共有する方がアニメーションを作りやすいようだった。